

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年2月27日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
七尾市地域公共交通協議会	七尾市	■中島元気バス ①鉦打・熊木方面 ②鉦打・熊木方面(朝・夜便) ③西岸方面 ④西岸方面(朝・夜便) ⑤豊川方面 ⑥豊川方面(朝・夜便) ⑦笠師保方面 ⑧笠師保方面第2・4便 ⑨笠師保方面第3便 ⑩笠師保方面(朝・夜便) ※車両減価償却費等国庫補助金補助対象バス1台	令和6年能登半島地震の影響で、道路事情もあり、令和6年2月19日から一部運行を再開し、元気バスの時刻表を、のと鉄道の早朝臨時バスの時刻表に合わせた。 また、4月7日から、のと鉄道の全線再開により、中島元気バスの時刻表もと鉄道に合わせたダイヤとし、中学生の下校時間の利便性向上にも配慮した。その後、地元の要望によりバス停が変更したことによる若干の時刻表の変更を行っている。 GTFS化したデータの情報を確認し、時刻表、バス停位置を最新の情報にアップデートし、大手交通サイトへの運行情報の提供を行った。	A	計画通り適切に実施している。	C ・事業の目標 輸送人員について、17,063人を下回った。(令和5年10月～令和6年9月輸送人員10,034人)※令和6年能登半島地震の影響で令和6年2月18日まで運休していたため、並びに少子高齢化における中学生の減少。 ・車両の取得に係る目標について、運行コスト1kmあたり192円以内という目標を達成できなかった。(令和5年10月～令和6年9月1kmあたり運行コスト207.37円)※未達成要因:令和4年度に比べ、燃料費や修繕費などの支出を抑制することができなかったため。	・今後も、のと鉄道のダイヤ改正に対応し、乗り継ぎ利便性を考慮するとともに、利用状況を確認し路線の見直し等を検討していく。 ・引き続き、市HPや交通系サイトを活用し利用促進及び利便性向上を図る。 ・令和6年能登半島地震の影響での減少を取り戻すべく、引き続き沿線住民への利用促進のためのPRを行っていく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となつて適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
七尾市地域公共交通協議会	北鉄能登バス(株)	まりん号順回り 七尾駅～ミナ・クル～七尾駅 まりん号逆回り ミナ・クル～七尾駅～ミナ・クル	・引き続き、利便性向上に向けたダイヤ改正などを検討していく。 ・GTFS化したデータの情報を確認し、時刻表、バス停位置を最新の情報にアップデートし、大手交通サイトへの運行情報の提供を行ったが、今年度は時刻表の変更もなかったため情報の変更は行わなかった。 ・生活支援コーディネーターからの依頼で、沿線住民に対しコミュニティバスの説明会を行い利用を促した。	A	計画通り適切に実施している。	B ・事業の目標 輸送人員について、45,599人を上回った。(令和5年10月～令和6年9月輸送人員47,240人) ・車両の取得に係る目標について、運行コスト1kmあたり286円以内という目標を達成できなかった。(令和5年10月～令和6年9月1kmあたり運行コスト339.02円)※未達成要因:令和4年度に比べ、燃料費や修繕費などの支出を抑制することができなかったため。	・利用状況を確認し、路線の見直し等を検討していく。 ・引き続き、市HPや交通系サイトを活用し利用促進及び利便性向上を図る。 ・今後も生活支援コーディネーターと協力し、沿線住民への利用促進のためのPRを行っていく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。